



# テクニカル 全ての下げを買い向かえ

北朝鮮の脅威は依然として残されているが、ピークは過ぎたように見える。最後の一線は核実験。これは中国も容赦しないだろう。中国の本気度は本物かもしれない。ガソリンを完全にストップされると北も苦しい。ここまでか。これに即して日経平均株価は平常の動きに戻るだろう。

前号(4月24日号)では次の通りコメントした。即ち『この金星逆行は3月4日に始まり、4月15日に終了。なんとこの期間は日米株式の下げトレンドと合致。日経平均は金星逆行開始日の2営業日前に年初来高値。順行転換1営業日後に4カ月ぶりの安値、そして先週末は18,600円台まで上伸。V字反発の兆しが出た。当初から日経平均は「地政学的リスクが排除されれば、株価は反転してV字回復するとの見通しも変わらない」と述べたが、いまだ地政学的な面は不透明。しかしテクニカル的、サイクル的には反転上昇してもおかしくない。現在は水星が逆行を開始した。テクニカル的なダマシが頻発するが、日経平均の13～19週プライマリーサイクルの観点では先週の安値が23週目で延長PCがボトムを打った可能性が高い』。

## 今週の必勝押し ユーロ短期売り推奨

現時点で2回目のフランス大統領選の結果は判っていない。筆者はこの間相場が二転三転して乱高下すると見ていたが、予想に反しドル/円、ユーロ/円、ユーロ/ドル共に4月中盤の売られ過ぎ状態から反騰。15日スローストキャスティクスの数値は、3市場とも目下買われ過ぎの領域にまで達している。これは映画「理由なき反抗」のチキンレースである。どの相場が最初に失速するか。筆者はユーロ/ドルではないかと見る。

前号の当欄を執筆している時、上記3市場のなかで最初に頭一つ抜け出したのはユーロ/ドルであった。まだ大統領選の結果が判っていないが、マクロン勝利でユーロ上昇、ル・ペン勝利でユーロ下落と見る向きが多いと思われるが、市場参加者の多数は既にマクロン勝利を当て込んだユーロ買いを済ませていると思われるため、仮に予想通りマクロン勝利でユーロが買われても、そこから先は利食い売り主導の下落相場が始まるのではないかと。ル・ペン勝利ならこれに狼狽売りが加わるだろう。

## 今週の主な予定・経済統計

### 5月8日(月)

- ・仏大統領選挙決選投票の結果判明
- ・4月の中国貿易統計

### 5月9日(火)

- ・3月の米JOLTS(求人労働移動調査)求人件数
- ・米3年債入札(240億ドル)

### 5月10日(水)

- ・米10年債入札(230億ドル)

### 5月11日(木)…満月

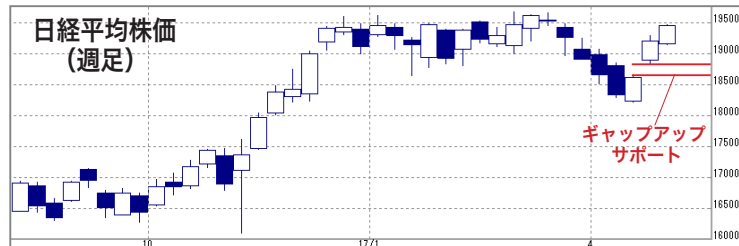
- ・4月の米卸売物価指数(前月比0.2%の上昇予想、前回は0.1%減)
- ・同コア指数(前月比0.2%の上昇予想、前回は横ばい)
- ・米30年債入札(150億ドル:総額で620億ドル)
- ・米週間新規失業保険申請件数(前週は23.8万件)

### 5月12日(金)

- ・4月の米小売売上高(前月比0.6%の増加予想、前回は0.2%減少)
- ・4月の米消費者物価指数(前月比0.2%の上昇予想、前回は0.3%減)
- ・同コア指数(前月比0.2%の上昇予想、前回は0.1%減)
- ・3月の米企業在庫(前月比0.1%の増加予想、前回は0.3%増加)
- ・5月のミシガン大学消費者信頼感指数・速報値(97.0の予想、前回は97.0)

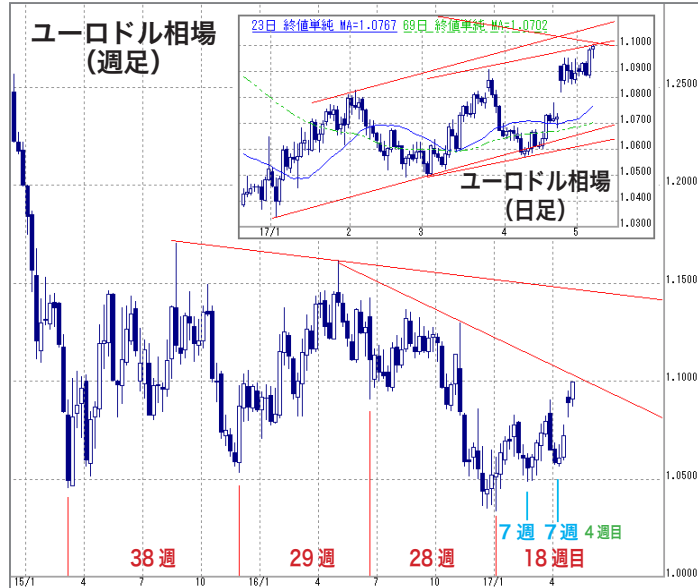
市場は北朝鮮リスクから離れ、目先は仏、韓大統領選に移行。ただこの材料も北朝鮮から日本に向けたミサイル発射の危険性に比べるとささやかなもの。後者は人命と日本経済自体を危うくするもので、このリスクは当面比重を下げておく。

日経平均のサイクルはボトムを打ったとみる。今後数カ月上昇有利の展開。週足のギャップを(週の終値で)完全に埋めて引けない限り、9月まで強気を維持したい。前号のストラテジーで買いを入れた投資家はそのまま持続して2万円以上を狙う。その他の投資家は今週、大統領選を前に、不透明感と懸念で下げた処は全て買い。ストップは18,648を週の引け値で割り込んだところに設定する。なお今週以降、買い増しする積極的な投資家は、浅いストップを19,000円割れの週の引け値に設定したい。



日足では、4月20～24日の相場で生じた1.0777～1.0820のGAPを下値サポートに目先1.1100～1.1200を目指す可能性が想定されるが、週足で見ると先週末の値位置は昨年5月3日の1.1615とトランプショックに伴う同年11月9日の1.1299を結んだ下降トレンドラインを上回る寸前の値位置。マクロン勝利でここを上抜けてもトランプショックのような強烈なヒゲが今回も出現する可能性は否定できない。

日柄面では2015年3月13日の1.0461から38週、29週と安値をつけ、更にそこから28週目が1月3日の1.0341。今週はこの安値から18週目でまだ日柄的な上昇余地はあるのだが、この相場はこれまで2回、7週間以小サイクルが出来ており、このサイクルで見ると今週は4月10日の安値1.0569から起算して4週目。次も7週目に安値が来るという保証は必ずしもあるとは限らないが、目先の上げの日柄は伸びても今週から来週までではないか。従って短期積極派は今週の上昇場面では売り参入を図りたい。少なくとも今月中までに先述のGAP水準。最大で1.06付近までの下落があると見る。この値位置が維持されれば、長期慎重派には買いを推奨したい。



## 今週の相場風林語録

**分別も思案もいらぬ買い時は、人の捨てたる米くずれたり**  
「値頃観無用」という言葉が、相場金言で重要な意味を持っている。ここでいう人の捨てたる米とは、誰も見向きもしない安値である。



今週の**九星★波動**

南雲 紫蘭

## ボラティリティ上昇？

マーケットがおびえていた有事。最初の有事であったフランス大統領選挙。まだ本選ではありませんが、少なくとも極右政権が誕生しユーロが崩壊するリスクはかなり減ったといえるでしょう。ユーロ売りを通じて、リスク回避のドル高、円高を生むリスクはかなり減りました。

もう一つの代表的なリスクであった朝鮮の有事。これは日本も巻き込まれる、という意味で円安を見込む投資家やストラテジストもありましたが、基本的にはリスク回避の行動から外貨のヘッジを行っていた日本の投資家は多かったでしょう。

結局、ユーロにヘッジしていた米国投資家、円高をヘッジしていた日本の機関投資家がヘッジを外した時に起こったのが、ユーロ高ドル安と円安ドル高の同時発生であったわけです。

そう考えると、フランス大統領選挙の結果を受けた一見わかりづらいマーケットの値動きも、投資家の恐怖とリスクヘッジ

相場指南道場

## トレーダーあすなろ物語 (393)

中原 駿

深夜のチャング空港発と違い、帰りの便は昼行便を取った。

この当時、全ての国際便は成田発であった。成田空港へのアクセスも、成田エクスプレスが京成電鉄しかない時代だ。後はリムジンバス。今にして思えばありえない高い値段であった。

それでも、便利さでリムジンをとるか、時間で成田エクスプレスをとるか、であったが田舎で大量のお土産をもらってしまった上野はリムジンバスを選ぶしかなかった。

リムジンバスは快適ではあるが、時間が読めないのが難点だった。

上野はかなり時間を前倒ししてホテルを出た。

朝の4時だ。

こんな時間に起きるのならば、深夜便も大差ない。

## 第六感のビッグトレンドを取る



テクニカルアナリスト 葛城 北斗

## 欧州の懸念材料は払拭されよう

5月5日発表された4月の米雇用統計は3月から大幅な改善が見られ、今の処、6月利上げを否定する材料はない。

ドル円は日本の大型連休中に113円台を達成。本欄のシナリオに沿った形で推移。前号(4月24日号)では次の通りコメントしている「現在、時間足のボトムフォーメーションは維持され日足ベースや週足ベースでもV字反転が想定される。日足では110円以上で引けて来ればボトム打ちを確認する。その後週足ベースでの上値目標は113円以上になってくる」。

相場は4日に113円台をつけ、雇用統計前に一時的に112円近くまで調整。これで調整を終えれば週明け日本市場は通常ならドル買いから入ってくるだろう。

しかし、今週はフランス大統領選の決選投票の結果が週明け日本市場午前中に発表されよう。世論調査ではルペン氏が苦戦しており、マクロン氏有利で展開されている。

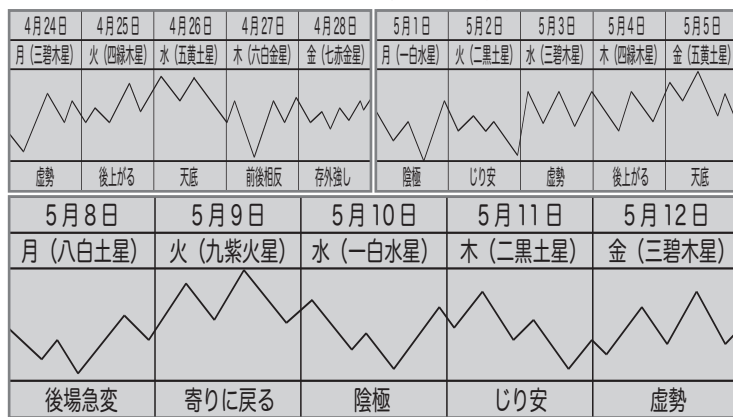
為替市場もユーロが上伸中で1.100近くまで回復。トランプショック後のレベルまで戻している。昨年はこういった政治イベントの世論調査は悉く裏切られ市場は大荒れしたが、今年は波乱なく展開されると筆者は観ている。ただ結果が市場予想通りなら一旦は材料出尽くしで売られるだろう。しかし、トレンドは変わらないと見る。今年のユーロドル相場は1月からの上昇トレンドが形成されている。押し目買いの相場と観る。

現在のユーロ、ドル、円それぞれのペア通貨の動きはこれま

行動を考えれば当然であったといえるでしょう。

さて九星高下伝は5月から新月盤《五黄土星》に入っています。いわゆる「天底」。株式も為替もここから一気に上昇して天井をつけるのか、それともその前の値動きが底だったのか。

連休明け後のボラティリティ上昇には要注意でしょう。



結局、身体に楽をさせようとして、身体に無理を強いている。皮肉なことだ。

まるで自分の人生のようだ。

と、上野はひとりごちそうになってやめた。

日本に帰ってからこんなことの繰り返しだ。

こんなことではだめだ…。

上野は、シンガポールでのポジションのことを考えていた。

時間がかかるが、勝てるはずのポジション。上野の理想はそれだったが、現実のポジションはそれとはかけ離れていた。

日々の損失を短いトレードで埋める仕事。それが上野のシンガポールでの現実だった。そこへ戻るのだ…。

またしても短い辛い時間が続いていく。

しかし、もう漫然とやるわけにはいかないのだ。

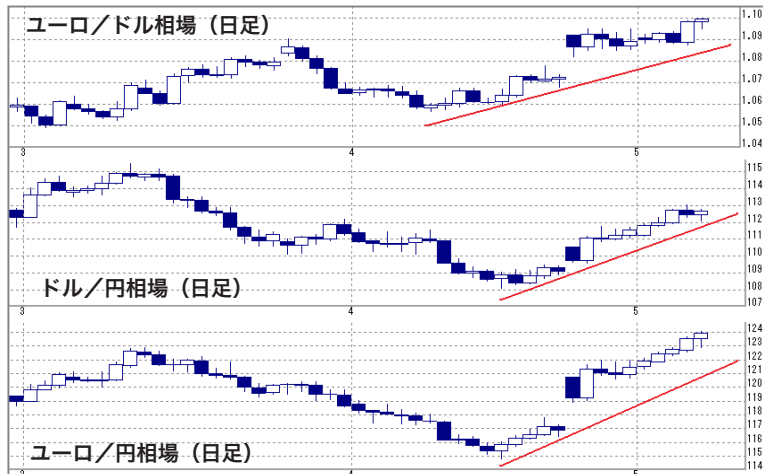
一度、大きな勝負をする必要がある。

上野には、プランがあった。

でと異なる。通常ユーロドルの上昇はドル円の下落となるが、4月からの動きをみると、どちらも上昇中。3通貨の強弱を推し量ると、現在最強通貨はユーロ、次いでドル。円は最弱通貨となっている。この傾向は今しばらく続くだろう。

これまでの本欄のストラテジーは次の通り。「リスクリワードを考えれば、108円割れの引け値にストップを置き108～109円台を買う。110円±18銭で一部利食いして残りは113円以上を狙うストラテジーを考える」。

109円台の買いになったがこれはうまく行った。週明けギャップアップがあるかもしれないが、利食いしていない109円台の一部の買いは保持し、ビッグトレンドを取りに行く。112.00円前後があれば買い増ししたい。110円割れの引け値に全てのロングのストップを入れておく。



## サイクルだけ話します。

— メリマン・サイクル理論 備忘録 —

## 【第38回】CRB指数のサイクルについて(1)

株なり商品なり、天底を予測する上で各種指数の動きを探る事は重要です。そこで今回はCRB指数のサイクルを探ります。月足データで筆者が所有しているデータは1956年11月から。その中で最安値は1968年7月の95.8なので、今回はここから大きな節目となる安値の間隔をカウントして行きます。



## メリマン通信 — 金融アストロロジーへの誘い —

## 今週は週初と週末に注目

アストロロジ的に年内最強の時間帯が終わろうとしている。執筆時点で既に金星と水星の逆行は終わっている。ただ、まだ両方ともシャドウ期は抜けていない。更に金とユーロはヘリオ射手座ファクター（5月1～11日）が今週終了する。

これらに関しては前号でこのように述べていた“（ヘリオ射手座ファクターという）急変動の特異日が重なるのが気にかかる。数年前まで、このファクターは相場の急降下からの急上昇と関連性が高かった。今回もこれに該当すれば、相場は5月第1週に向け急落し、そこから急騰しよう。しかしここ最近急騰から急降下とも関連性が見られるようになった。そのため方向感が読めない。ただ、もし急騰急落パターンであった場合、5月18～21日付近が一つの節目として候補に挙がるのではないかな。逆行は順行に戻ってもしばらくはその影響がある。これをシャ

まずここから18年後の1986年7月に196.17を付けた。そこから13年後の1999年7月に182.67を記録。そこから2008～2009年にかけての急騰と暴落を経て、2016年1月に1973年以来の安値水準まで下落しますが、86年安値から起算するところは15年と3カ月目。従ってこの指数は13～19年のレンジを有する16年サイクルがあると筆者は見ます。

この見方が正しければ、相場は昨年1月から新長期サイクル入りとなり、「サイクル序盤は強気」がサイクル論の基本なので、国際商品はしばらく上昇期が続くという見立てになります。

ドウ期と呼ぶのだが、4月15日に順行に戻った金星は5月18日、水星は5月21日にそれぞれシャドウ期を抜ける。年内最強の天体位相が終了し、しばらく星回りの大きな転換ポイントがない現在、この2つの時間帯は留意しておきたいところだ”。

今回特徴的であったのは、ファクター発生期間中に金が下げ続けたのに対し、ユーロは4月末からの保合いを水星逆行終了日付近で上抜けたという事である。ここはファクターの中間点付近でもあった。従って、国内外を問わず、相場は先週末の値位置、もしくは遅くとも今週8日から満月が発生する10～11日付近までの時間帯が転換ポイントになるのではないかと見る。仮にそうなった場合、前号でも指摘した金星、水星両逆行のシャドウ期抜けの時間帯である5月18～21日付近がその次の反転ポイントになるのではないかと考える。

なお、更に短期的なポイントとして個人的に注目しているのは12日。この日、火星は木星とトライン（120度）の関係になる。ここは株式市場の上昇のピークと関連しやすい。

## WEBサイトより一足早く、1週間分まとめ読み！！

## 今週のアストロロジー info

- 5月8日(月) いきなり転換点
- 5月9日(火) トレンド発生
- 5月10日(水) 利食いたくなった時は乗せろ
- 5月11日(木) NY市場で大きな動き
- 5月12日(金) しまったは仕舞え
- 5月13日(土) 来週はポジティブ思考が正解
- 5月14日(日) 怖いと思う方向にかけよ 安心感が出れば逃げよ

**2017年は相場の節目か？**

星を読む。サイクルを読む。市場を読む。  
Feel the star. Feel the cycle. Feel the market.

**フォーキャスト2017**

アストロロジーとサイクルで  
2017年の相場を読み解く究極の書

レイモンド・メリマン 著 秋山日揮香・投資日報編集部 訳  
投資日報出版発行 8100円（税込・送料別）

簡単・便利な『投資日報オンラインショッピング』もご利用ください。

お問い合わせ：投資日報出版(株) <http://www.toushinippou.co.jp/>  
〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町3-12-11 GRANDE 人形町6F 電話：03-3669-0278 FAX：03-3668-4444

高く仕入れて安値で投げる投資家から  
脱却してアクティブブシニアになろう！

四半世紀以上、投資の最前線で活躍してきた  
「プロ中のプロ」が語る現在の株式市場とは

- ◎マイナス金利時代に株を持続  
けて成功する秘訣を解き明かす
- ◎10倍になる株など豊富な実例  
で銘柄発掘の心得を公開！
- ◎株式投資の実践編として〈有望  
銘柄掲載〉！



## 株で資産を蓄える

～バフェットに学ぶ失敗しない長期株式投資の法則～

S・アダチ&amp;カンパニー

代表取締役社長

足立 真一 著

発行：開拓社 定価：1,296円（税込み）